

< 目次 >

- 1 【教育振興】久慈市立宇部中学校の取組から
  - 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
  - 3 【編集後記】あつしのひとりごと
  - 4 【みんなの声】ぺっこ言い隊
- 

1 【教育振興】久慈市立宇部中学校の取組から

子どもたちが抱えている課題を解決し、持っている力を伸ばすこと。それは、どの家庭でも願っていることです。また、子どもたちが生き生きと生活していると、地域も元気になります。子どもたち自身は自らこのことに取り組み、学校・家庭・地域・行政は役割分担を明らかにして、それをサポートする必要があります。この取組を、教育振興運動と言います。

メルマガ第7号では、行政の役割のひとつとして広報の大切さを紹介しました。雫石町では、毎月の広報で子どもたちの現状や町が目指す方向性を提示したり、各地域の取組を紹介したりしていました。今号では、ほぼ毎日、「学校だより」を発行し、子どもたちの意識向上に向けた働きかけと家庭や地域への情報提供を行っている久慈市立宇部中学校の取組を紹介します。

バックナンバー (1～50号)

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_bn.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html)

事例 (前半) ⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/23ubetyuu1.pdf>

事例 (後半) ⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/23ubetyuu2.pdf>

宇部中学校の「学校だより」は、学校の取組や子どもたちの様子を各家庭に紹介するだけでなく、家庭学習における勉強の仕方や取り組んだ生徒の感想が掲載され、親子で一緒に家庭学習について考えることができるようになっていきます。

これは、先生・生徒・保護者が目標を共有し、協働して達成を目指す「まなびフェスト」の取組です。そして、「家庭学習の定着を図る」という課題をそれぞれが役割分担をして取り組む教育振興運動の取組でもあります。

宇部中学校では、「まなびフェスト」の取組状況を生徒自身・保護者も反省し、評価することとしています。生徒自身や保護者も自分の取組を評価することで当事者意識を持つことができ、また、この反省が次年度の「まなびフェスト」の改善につながります。

どの学校でも「まなびフェスト」を設定し、家庭学習の取組を行っていると思います。家庭学習は、学校と家庭の取組であって、地域が関わらないから教育振興運動ではないという声もあります。

しかし、仮に地域が関わらず、4者での活動であっても、「家庭学習の時間が短い」という子どもたちの課題を解決する教育振興運動です。また、地域の集会所を開放して、土日の宿題を子どもたち同士が教え合う場を設けたり、家庭学習の大切さを考える家庭教育学級を開催して、保護者の意識を高めたりすることは、同じ地域に住む大人の役割なのだと思います。

---

## 2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) ねえ、振ちゃん。「子どもの学び支援ポータルサイト」って、知ってる。

(振ちゃん) 知っているよ。東日本大震災の被災地からの支援の要請と支援したい人を結ぶ文部科学省のホームページだよ。

(教ちゃん) そうなの。被災市町村の学校や教育委員会が「これが欲しい」とか「こんな協力者に来てほしい」という要請をホームページに書き込むと、それを見た支援したい人や団体が支援してくれることになっているのよ。

詳細は ⇒ <http://manabishien.mext.go.jp/>

(振ちゃん) 岩手県の学校や教育委員会からの要請は、どれくらい載っているのかな。

(教ちゃん) 宮城県は88件、福島県は49件だけど、岩手県は20件なの。特に岩手県は、学校からの要請が少ないのよ。

(振ちゃん) どうしてだろう。岩手県の学校は、困っていないのかな。それとも、岩手県内の支援体制が整っているのかな。

(教ちゃん) 子どもたちの活動を支援するためには、遠慮はいらないと思うの。学校単独でも要請できるのだから、どんどん要請したほうがいいと思うわ。

(振ちゃん) 「困った時はお互い様」という、助け合いの心を育む機会にもなると思うよ。世界で最も貧しい国と言われる「東ティモール」が、この震災の義援金として1億円を日本に届けてくれたんだ。自国

の国民の生活も大変なのに「これまで日本には、お世話になってきたから」、「困った時はお互い様だから」と送ってくれたんだよ。

(教ちゃん) 困っている人を助けることが当たり前の社会だと、困った人は我慢をしないで、安心して「助けて」と言えるよね。

(振ちゃん) うん。そういう人に優しい社会でありたいな。「子どもの学び支援ポータルサイト」には、被災に負けず頑張っている子どもたちの写真も掲載されているんだ。大船渡第一中学校や釜石東中学校、唐丹中学校の生徒の写真が載っているので、是非見て欲しいし、県内の中学生の皆さんにも紹介してほしいな。

写真は ⇒ <http://manabishien.mext.go.jp/archive>

---

### 3 【編集後記】あつしのひとりごと

「ありがとう」と言われると、うれしくなるのはどうしてでしょうか。それは、人が「他の人に喜んでもらう」ために生きている生き物だからではないでしょうか。

文部科学省も協力している経済産業省の官民連携事業「復興メディア支援隊」が、大船渡第一中学校の石山校長先生にインタビューした動画が、YouTubeで配信されています。是非、ご覧ください。

動画は ⇒ <http://www.youtube.com/watch?v=9VYS1nmV0uA>

大船渡第一中学校は、1割の生徒が被災しましたが、9割の生徒は普通の生活をしています。震災後、地域の役に立ち、地域の人に喜んでもらえるように、自分たちができることに取り組んでいます。

自分のために一生懸命になるのは、当たり前のこと。人のために何ができるかが人柄を表します。また、苦しい時にどのような行動をするかで、その人の真価が問われます。大船渡第一中学校の生徒たちは、先生方の指導のもと、具体的に行動しています。

---

### 4 【みんなの声】ぺっこ言い隊

(1) 教振50号、おめでとうございます。教育に対する熱い視点と姿勢に、感心する毎回です。

先日、「(株) グランまま社」の田中尚人さんにお会いしました。「パ

パS絵本プロジェクト」で、K市の学童クラブで読み聞かせをしていただきました。

「子どもが元気になると、お母さんが元気になる。だから、父親の子育て参加が必要だし、子どもと妻と自分のための家庭円満の秘訣である」、「よい子育て環境を循環させて、世界平和の実現を目指す」と熱く語ってくださいました。要約すると『父親が読み聞かせをすると世界が平和になる』・・・なるほど、納得です！佐藤さんにも「よろしくお伝えください」とのことでした。

では、51号も楽しみにしております。(K市 Mさん)

※NPO法人ファザーリング・ジャパン(代表;安藤さん)の「パパS絵本プロジェクト」の皆さんとは、ゴールデン・ウィークに沿岸被災地を訪問し、一緒に読み聞かせをおこないました。

(2) 楽しい、ためになるメルマガジんだと伺いました。是非、私にも配信して下さい。(T市 Sさん)

※ありがとうございます。最近、個人の配信希望が増えてきています。このメルマガは、必要な部分をコピーして活用して下さっても結構です。また、お知り合いの方への転送も、大歓迎です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第52号は、9月13日(火)配信です。

★バックナンバー(第1～50号)はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_bn.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html)

★全県共通課題(家庭学習と読書推進)の実践事例はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_zj.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_zj.html)

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk\\_s.html](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_s.html)

～～～配信元～～～

\*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\*発行人:教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう!」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

～～～